

「精神的に不安定」35%

コロナ影響 不妊や不育症の女性

岡山大調査

新型コロナウイルス感染拡大が不妊症や不育症の女性に与える影響について、岡山大学院保健学研究科の中塚幹也教授らがアンケート調査を実施し、約35%が「精神的に不安

定になった」と回答し、たと明らかにした。中塚教授は「正確な情報や精神的なケアを行う窓口の重要性が改めて明らかになった」としている。

7、9月に岡山、広島両県の医療機関4施設を受診した180人に、新型コロナウイルスの影響について尋ねた。「感染拡大で治療を再考したか」との問いに対し、約4割が「再考した」と回答。実際に約15%

の患者は治療を延期したり、受精卵を凍結保存したりしたという。

また、15%が新型コ

ロナの影響で経済的不安を感じたといい、収入の減少が治療に影響すると答えたのは「やや思う」を含めると全体の87%に上った。不妊症・不育症ともにコロナ禍での治療について4割以上が「誰にも相談できなかった」と回答した。中塚教授は「不妊症・不育症カテゴリーへの経済的支援を

考慮すべきだ」と訴えている。

不妊治療については4月、日本生殖医学会が会員の医師に対し、

不妊治療の延期を選択肢として受診者に提示するように求める声明を出した。

【戸田紗友莉】